

1-19 原油市場概況

ーロシア・ウクライナ戦争は原油狙い撃ちで停戦交渉へ。

ー暫くは原油は高止まりするがウクライナ復興特需が生まれるのも近いかもしれない。

- ①ロシアの経常収支は増加しているがインフレが進み高金利である。
- ②インド・中国が石油を安く購入している。
- ③90億ドル規模以上のデュアルユース製品を中国から輸入している。
- ④貿易の対中依存度合は38%。
- ⑤原油・天然ガスがロシアの歳入の約1/3を占める。
- ⑥影の船団の活動による密輸行為。
- ⑦兵器技術は欧米に依存している。
(ウクライナで使用されるロシア兵器の外国製割合は95%で米国製が72%。)
- ⑧ロシアは元々アフリカを中心とした武器輸出大国であるが、最新のサイバー戦争等で使える技術ではない。
- ⑨もはや北朝鮮に軍事技術を提供して弾薬や兵士を確保するしかないほど追い詰められている。(これは大国としての威信に関わる重大事である。)

2022年時点ではアメリカのインフレ率は9%を超え、原油価格も100ドル超えであったことから原油制裁を外した。

しかし今は状況が異なる。

インフレはだいぶ落ち着き、ロシアの継戦能力も弱ってきている。

ロシアの戦争財源の原油輸出をターゲットとすることが可能になり徐々に進んでいる。

アメリカの制裁強化に加え、EUも制裁を強化できる。

影の船団はジブラルタル海峡とデンマーク沖を通る必要がある。

IMOによる取り締まり要件を満たす必要が出てくる。

原油輸出保険に入るには欧米が定めた価格上限を下回る価格で原油を輸出する必要があるのだ。

一時的に原油価格は高止まりするであろうがロシアの継戦能力は削がれ停戦交渉が始まるであろう。

その時に欧州の復興特需が発生する。